

審査結果の要旨

(1) 研究の目的に意義や独創性があるか。

今回提出された博士の学位請求論文は、健康教育における自己管理スキルの重要性に着目し、展開してきた研究実績を基にまとめたものである。高橋氏はこの研究領域の第一人者であり、新たな研究の展開を切り開いた意義と独創性を認めることができる。

さて、健康教育の領域では、これまで WHO の提唱するライフスキルが十分に吟味されないまま広く用いられてきた。しかし、高橋氏は、ライフスキルの概念的な曖昧さと保健行動との関連に関する根拠の乏しさを指摘し、Rosenbaum のセルフ・コントロール・スケジュールなどの先行研究を吟味し直し、認知的スキルを基本とする自己管理スキル尺度の開発を行ってきた。入念な妥当性と信頼性の検討はもちろんのこと、尺度の有用性について、喫煙防止教育、性教育、糖尿病患者教育などを具体的な研究トピックとして取り上げ、保健行動との関連を明確に検証している。すなわち、高橋氏が開発した自己管理スキルは、好ましい保健行動との関連を予測し、教育あるいは学習により向上が可能であることを示したのである。しかも、特定の行動に関わる適応範囲の狭い自己管理スキルではなく、汎用性の高いベーシックなスキルを測定していることも、さまざまな健康教育のトピックに適用できるという点で優れている。

欧米で開発された尺度を、翻訳して使用する例がしばしば見られるが、高橋氏は、先行研究を踏まえているとはいえ、独自の自己管理尺度を開発し、健康教育を行ううえで信頼できる指標となることを示したという点で、意義があり、独創的な研究であるといえる。

(2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

本研究で用いられている統計的分析方法、研究デザインは、健康教育関連の領域における研究として、適切である。

具体的には、尺度開発の過程において、先行文献による理論的な検討、因子構造を確認し決定するための探索的因子分析と確認的因子分析の適用、さらに開発の際に参考とした Rosenbaum のセルフ・コントロール・スケジュールとの関連性の検討による並存妥当性の確認、外的基準との関連を明らかにした基準関連妥当性の検証など妥当性の検証、他の集団にも同じ因子構造が当てはまるか確認した多母集団同時分析、などにおいて適切な統計的手法を適用しており、健康教育の効果を明らかにするための準実験デザインによる研究実施など、いずれも理にかなったものであり、健康心理学や健康教育学の領域における研究方法として妥当である。

(3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

すでに (2) で述べたように、尺度開発と健康教育の効果の検証という目的にかなった統計的分析方法が適切に選択され、使用されている。また、データの収集も、学校や医療機関等の健康教育場面での研究も含まれているが、目的と場の特性に照らし合わせて適切であるといえる。

(4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか

本研究の知見、知見を踏まえた考察と結論は、健康教育領域において十分に意義を認めること

ができ、学術水準として高いレベルに達している。

まず、本研究の大きな研究の柱は、1) 信頼性、妥当性が担保され、保健行動と有意な関連を示す認知的なスキルからなる自己管理スキルを測定する尺度を開発することができたか、2) その尺度は実際にさまざまな保健行動と密接に関連しているといえるのか、3) さらに、自己管理スキルは、健康教育的な介入により、学習し向上させることができるのか、という点である。

これらの点に関して、1) では尺度開発の手続きを踏み、自己管理スキル尺度の因子構造、信頼性、妥当性など精神測定学的特性 (psychometric property) について十分な検討結果が示されている。また、それらに対して適切に考察が加えられ、結論付けられている。2) 自己管理スキルが糖尿病の自己管理行動や喫煙行動と密接に関連があることを実証している。特に糖尿病の自己管理スキルとの関連では、糖尿病固有の自己管理行動を通して間接的にヘモグロビン A1c という血糖コントロールの生理学的指標と関連するのみでなく、ヘモグロビン A1c と直接的な関係も認められるというメカニズムを、パスモデルを使って検証している。これらのことは、特定の健康問題に関する自己管理行動の研究において重要な成果といえる。また、これらの関連性に対する考察、結論も適切である。3) 性教育における授業的介入により自己管理スキルが学習可能で向上すること、さらに中学生から成人までの異年齢集団を比較することで、成人になっても向上する特性であることを示しつつも直線的に発達する特性ではないことを示唆する興味深い結果を得ている。これらの結果について適切に考察され、結論付けられている。

(5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

本研究は、博士 (教育学) の学位取得にふさわしい意義や成果を認めることができる論文である。繰り返しになるが、1) 信頼性、妥当性が担保され、保健行動と有意な関連を示す認知的なスキルからなる自己管理スキルを測定する尺度を開発することができたか、2) その尺度は実際にさまざまな保健行動と密接に関連しており、健康教育において有用であるといえるのか、3) さらに、自己管理スキルは、健康教育的な介入により、学習し向上させることができるのか、という大きく 3 点の研究疑問に対して、健康教育の領域において意義ある研究成果が得られており、博士 (教育学) の学位取得にふさわしい論文である。